

猿八地区は1998年の「鳥越文庫」竣工以来、伝統芸能講座や蔵書の寄贈者である鳥越文蔵先生との懇話会等を開催し、伝統芸能の発信に取り組んでいます。昨年、猿八の越敷(おしき)神社拝殿を会場に開催された能、文弥人形、ジャズ音楽と光の実験的舞台は、篝火と照明に映える演技と舞台が観客を魅了しました。再演を望む声にお応えして、今年も開催の運びとなりました。皆様のご参加をお待ちしております。



おしき  
佐渡猿八越敷神社共同舞台  
能・人形浄瑠璃・サックスと光の共演—「隅田川」  
2015年8月2日(日曜日) 18:00開場 19:00開演

主催:猿八自治会 要・予約(80名限定 観覧料:1,000円) 雨天決行

観覧にはご予約が必要です。先着80名様に限らせていただきますので、お早目にお申し込み下さい。

\*公演当日、畑野温泉「松泉閣」0259-66-2545(新潟交通バス南線「仙道」より徒歩3分)から会場までの送迎バスを運行します。(「松泉閣」発時刻 ①午後5:00 ②午後6:00)会場周辺の駐車スペースは僅かです。自家用車は「松泉閣」に駐車して送迎バスをご利用下さい。

\*夜間の公演なので各自、懐中電灯をご持参下さい。

\*島外からのお客様には畑野温泉「松泉閣」の簡易宿泊(ナイトパックお一人2,500円)をご紹介します。

## 環境、時、ものと人との共同舞台

- 猿八地区は標高300mの山里、訪れる人も車も少なく、夜は風と鳥獣の音が聞こえるだけ。
- 明治31年(1898)に火災で焼失した越敷神社社殿を住民は僅か2年で再建した。当時、演能が盛んで、拝殿は能舞台として使える造りになっている。
- 2014年、猿八を訪れた能楽師の清水寛二氏とサックス奏者で宮大工でもある坂野正崇氏は猿八在住の人形遣い西橋八郎兵衛とともに、越敷神社の能舞台復活を企画。住民の快諾と協力を得て、中世、近世の伝統芸能と洋の東西にこだわらぬ音楽が融合する共同舞台が実現した。
- 観客が居なければ舞台は出来ない。猿八に暮らし越敷神社を守ってきた地元住民、鳥越文庫開設に尽力いただいた方々、猿八を愛する人々が一堂に会し、今年も共同舞台の幕が開く。

観覧予約、その他お問い合わせ 電話 090-4828-9935 (山本)



# 共同舞台に 出演する人 支える人



**鳥越 文藏**

早稲田大学名誉教授、元早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長  
日本近世演劇研究、1998年、全蔵書2万冊を佐渡市(当時の畑野町)に寄贈、猿八に鳥越文庫開設



**清水 寛二**

観世流シテ方 東京芸術大学非常勤講師、沖縄県立芸術大学非常勤講師、銚仙会理事、能楽協会会員、日本能楽会会員/重要無形文化財総合指定



**岩崎 敬**

環境デザイン (株)岩崎敬環境計画事務所代表  
フランス水アカデミー会員  
東京大学先端科学技術研究センター客員研究員  
北陸先端科学技術大学院大学非常勤講師  
多摩大学情報社会学研究所 客員研究員  
早稲田大学演劇博物館 客員研究員



**西橋 八郎兵衛**

佐渡市猿八在住  
早稲田大学で演劇学専攻後  
文楽人形遣い吉田蓑助に入門(芸名 吉田蓑司)  
1979年佐渡に移住  
佐渡文弥人形「真明座」座員  
人形浄瑠璃「猿八座」主宰



**渡部 八太夫**

東京都八王子市在住  
東京都あきる野市の小学校に勤務中、秋川歌舞伎の復活と秋川子ども歌舞伎の立ち上げに関わったことをきっかけに、邦楽を始める。1993年「説経節の会」に入会、杵屋徳波(京屋波)に師事。2005年 薩摩派説経節家元十三代目若太夫を襲名。2011年教員を退職猿八座の座付き太夫となる



**坂野 正崇**

建築家 ジャズサクソフ奏者  
ボストン・パークリー音楽院大学卒業  
ニューヨークでミュージシャンとして生活。帰国後、伝統木造建築大工として修行・独立後 2005年、住宅デザイン設計事務所 ADO 設立



建築から110余年、氏子の人々が社殿を守って来ました。神社境内の草刈り、清掃、八寸角柱2本と板戸を外して拝殿を能舞台に拵え、床板を糠袋で磨き上げる。舞台の準備と終演後の片付け等々、目に見えぬ所で沢山の人々が一夜の舞台を支えています。今年は清水寛二さんが講師を務める東京芸術大学の学生さんが猿八で合宿実習して、舞台準備を手伝って下さいます。